

やましろ

2010年3月

第9号



普及センターだより

京のやましろ 田舎暮らし必見★ 発見★体験プログラム実施中

南山城村田舎暮らし推進協議会

平成17年度から取り組んできた「農のあるライフスタイル実現プロジェクト」は、3年を経過して地域に定着してきました。「南山城村田舎暮らし推進協議会」は、トマト・ブルーベリー・そば・大豆・炭焼き等5種類の農作業体験と加工体験プログラムを開催し、田舎暮らし希望者と地元住人が交流を深め、村外からの移住が進みました。これまでに、2組の家族が空家をリフォーム後、村内に移住し、農作業をはじめ、道の草刈り等集落の行事に参加し、地域に新しい風を吹き込んでおられます。

また、城陽市の方が遊休農地を借りて、野菜や米作りを自宅から片道1時間をかけた通勤農業で始めておられます。

普及センターでは、今後とも協議会の自主的な活動を支援していきます。



▲ リフォーム中の住宅を訪問

▼ ブルーベリージャムづくり



● タスクチームでミカントゲコナジラミ対策

京都府では、今年度から、現地の課題を農林水産技術センターと農業改良普及センターが一体となって解決に向けて取り組むタスクチーム活動を行っています。山城北・南普及センターでは、茶業研究所とタスクチームを組み、茶の新規害虫であるミカントゲコナジラミの有効な防除方法として、「秋冬期のマシン油剤の散布」について各地域で、実証・普及を行っています。

平成21年度 京都府農山漁村伝承技能登録 された皆さん

京都府では、豊かな経験と技により保持されている農・林・水産業の生産生活技術を広く公募し、登録基準により登録証をお渡ししています。登録は2年毎で、今回の登録者は次の11名の皆さんです。

保持者氏名	市町村名	登録技能名
奥田 弘子	城陽市	いちじく糖果加工
長村 傳次	八幡市	梨の栽培
東村 昇	八幡市	梨の栽培
藤本 博子	京田辺市	飾り巻寿司(花寿司)づくり
小山 和美	京田辺市	飾り巻寿司(花寿司)づくり
阿辻 好子	井手町	飾り巻寿司(花寿司)づくり
堀井 雅子	宇治原町	飾り巻寿司(花寿司)づくり
下岡 久五郎	宇治原町	宇治茶の栽培
林 辰男	和束町	煎茶の栽培・加工
一宮 清光	精華町	わら・竹細工
植田 隆夫	笠置町	サンショウ(木の芽)伏せ込み栽培

平成21年度 京都府農山漁村伝承優秀技能認定 (農の匠)に選ばれた皆さん

「京都府農山漁村伝承優秀技能」認定は、「京都府農山漁村伝承技能」として登録された技能の中から、極めて希少価値が高く優秀と認められる技能を知事が認定するとともに、その保持者を「京都府農・山・海の匠」と称し、認定証を交付するものです。昨年11月28日、京都府農林水産フェスティバル会場にて交付式が行われ、次のお二人が「農の匠」として認定されました。



下岡久五郎氏



宮木保雄氏

認定区分	技能名	氏名	市町村名
農の匠	宇治茶の栽培	下岡 久五郎	宇治原町
農の匠	トルコギョウの周年栽培	宮木 保雄	木津川市

平成21年度 京都府農業士に認定された皆さん

管内から2人の方が新たに農業士に認定されました。各地域のリーダーとして、御活躍いただきますようお願いします。

氏名	市町村名	部門
山口 吉広	久御山町	野菜苗

氏名	市町村名	部門
森田 裕一	木津川市	茶

2期生募集予定! 女性起業家アグリビジネス創生塾

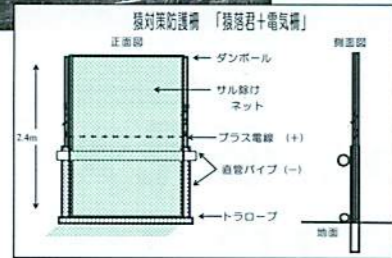
山城地域の女性を対象に、起業家育成講座を開催します。講師には専門家を迎え、女性のための新しいアグリビジネス(農産加工・農家レストラン・農家民泊など)に向けた支援を行います。

- 1年目: 基礎講座 (起業家活動のための基礎とビジネスプランの作成)
- 2年目: 実践講座 (基礎講座修了生を対象として実践的な知識習得と専門家からのアドバイス)
- 講座人数: 20名程度 *募集は6月頃になります。多数の申込みをお待ちしています。

●鳥獣被害に強い集落を地域で作しましょう！



▲ 猿対策防護柵
「猿落君 + 電気柵」



鳥獣被害を受けている集落では、農作物、収穫残さや放置生ゴミ、雑草、収穫後のヒコバエ等がエサとなり、獣の誘引の原因となっています。

そのため、普及センターでは、宇治田原町、木津川市等で鳥獣被害対策の研修会を開催し、防護柵の設置等に取り組んできました。

また、安価でメンテナンスの少ない効果的な防護柵を探るため、サルに対する「猿落君+電気柵」「防風ネットを利用した柵」を木津川市山城町神童子に設置し、効果を検討しています。

防護柵に追い払いを組み合わせるだけでなく、集落には、「おいしいエサが無く」「人はこわいもの」と獣に学習させることが重要です。

今後も市町村等と協力して、集落全体で鳥獣害に対する知識を深め、対策を進めていきます。

●農薬飛散防止技術 パイプハウスで実証



▲ ハウス内を撥水性不織布のカーテンで仕切っています

食品衛生法が改正されたことによって、食品に残留する農薬等が基準を超えた場合は、流通が禁止され回収義務が生じることとなります。

普及センターでは、散布した農薬が防除目的以外の作物に飛散すること（ドリフトと称す）を防ぐ技術を現地実証しています。動力噴霧機で農薬散布(圧力:1Mpa)した場合、ハウス内でも約2m飛散していることが分かりました。

そこで、対策として散布する薬液を大きな粒子にするドリフト低減ノズルと、撥水性不織布のカーテンを組み合わせることで、高い農薬飛散防止効果があることが認められました。

●減農薬技術 フェロモン剤によるハスモンヨトウ防除

木津川市山城町



▲ フェロモン剤設置



▲ トラップ設置



▲ トラップ (対照区)

木津川市山城町では、軟弱野菜が施設で周年栽培されています。

環境にやさしい農業の推進が求められている中で、ハウレンソウ栽培におけるハスモンヨトウ防除として、フェロモン剤（交信攪乱用）の利用を3aの施設で検討しました。

フェロモン剤を設置すると、トラップへの飛来はほとんどなくなりました。費用は100本/10aで1万円、効果は4ヶ月持続します。慣行の薬剤と比べて約3割のコストダウンとなります。

●黒エダマメの栽培実証

ハウス土壌の改善と新直売品目づくり

京都やましろ農業協同組合宇治田原町水菜生産部会

ミズナ栽培後に「新丹波黒」のエダマメを栽培し、ハウスの土壌改良効果を調査しました。土壌塩類濃度障害の回避 (EC 0.4dS/m 程度低下) が行えるとともに、初生葉摘心技術を活用して、面積3aのハウスで200g袋パック換算すると平均1,460パックが生産でき、直売所での新たな品目として販売され好評を得ました。

▶ 苗 (初生葉下で摘心)



◀ 収穫期の株

●堀川ごぼうを地元の消費者へ届けたい

堀川ごぼう栽培研究会



▲ 出荷前の試し掘り

山城地域での堀川ごぼうの栽培は、8年前に井手町の数名の女性グループが始めました。平成21年には、京田辺市、木津川市、精華町、和束町の二市二町で栽培され、府内における主要な産地となりつつあります。

平成20年に堀川ごぼう栽培研究会（会員16名）が普及センター助言のもとに発足し、各種技術講習会やほ場互見会、良苗生産のための育苗ほの設置などを行い、栽培技術の向上を図ってきました。

販売先は、市場出荷をメインとしながらも、地元の需要拡大も進めています。各種イベントを活用した試食販売、地元料理店への販売促進など多様な活動が展開されています。その結果、今年度には、外食産業との契約販売の試行や京田辺市、井手町での学校給食への供給が行われました。

●私達が支えている。エビイモ産地

京都やましろ農業協同組合 京田辺市えび芋部会



▲ 部会員によるエビイモほ場互見会

エビイモは、海老のような曲線と縞模様が美しいイモで、独特の粘りと上品なうまみがあり、お正月料理の定番食材として人気の京野菜です。

山城地域全体では約6 ha 栽培されていますが、そのうち京田辺市では府内一の産地として20 数戸の農家で約3 ha 栽培されており、山城地域の温暖な気候のもと10月から春先まで長期間良質なエビイモを出荷しています。

えび芋部会では、栽培研修会やほ場互見会を定期的に行っていますが、エビイモの良質安定生産を支援するため、普及センターも参加して新しい府試験研究成果の紹介や地元優良技術の普及に努めています。

昨年は、東京都内のホテルで開催された「京の食文化と京野菜」フォーラムで、京田辺市の農家が提供したエビイモの展示と試食が行われ、エビイモのおいしさが首都圏の消費者にも伝えられました。

普及センターでは、今後とも自信を持って販売できる山城地域の特産物としてエビイモの生産拡大を支援していきます。

●「夢をカタチに」私の事業プラン発表会！

アグリビジネス創生塾(塾生25名)



▲ 各人の事業プランを熱心に聞き入るメンバー

◀ 聞いて下さい「私の事業プラン」を発表

「女性起業家アグリビジネス創生塾」では、山城地域の女性を対象に、起業家育成講座（2年間20回）を昨年7月から開催してきました。

キャリアアドバイザー等も講師に迎え、受講生が抱えている夢をカタチにするため「私ブランド」のイメージづくりや管内の加工施設の見学会、普及指導員による個別相談会を通して、事業プランをじっくり練り上げてきました。

去る2月1日には、練り上げたプランを「私の事業プラン発表会」で、プレゼンテーションを行い、試作した商品も紹介しました。

受講生の事業プランは、季節の野菜を使った手作り加工品の販売や宅配サービス、お茶カフェの開設、農作業体験の受入など、女性ならではの人生経験を生かした新しいビジネスプランでした。

来年度は、商品開発やマーケティング手法の習得、事業プランの具体化のため資金計画づくりや開業場所を確保して創業することを目指します。